

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	6	名称	高齢者の生きがい対策の推進			
主担当部	福祉部		主担当課	福祉総務課		部長名	福井 和夫
関係部	健康部		関係課	健康増進課・老人福祉センター			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	高齢者が、生涯学習・老人クラブの活動等に参加しやすい環境を作るとともに、そこで学習した成果を発展させる場所・機会の充実を図ります。元氣な高齢者が、ボランティア活動等に生きがいを持てるような環境を作ること、高齢者の社会参加を促進します。さらに、市民が様々な世代とのつながりを感じられるよう、世代間の交流の場を管理運営することにより支援します。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	豊富な経験・知識を持つ元氣で活動できる高齢者が増加しています。このようなシニア世代のエネルギーを社会貢献につなげることができるような地域活動・文化活動の場となる様々な講座及び各地域における学習活動への支援、成果を発表できる場が求められています。高齢者が生きがいを実感しながら生活の充実・向上につながるよりよい仕組みづくりを進めます。	県においては、高齢者の生きがい活動を支援するための社会参加活動に関する啓発、社会活動振興のための支援、さらに高齢者が気軽に生きがいをもって活動できる環境づくりを行っており、市と協力して施策を推進する関係にある。
これまでの成果	千寿荘、やわらぎの郷において、各種教養講座を開設してきており、各施設を発表会及び展示会等多様な学習の場として活用し、高齢者が生きがいを実感しながら生活を充実・向上させることにつなげている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	老人クラブ加入者数	4164	4500	3883	4000	4000	4000	
	施策指標② (成果指標)	高齢者大学校受講者数	232	250	226	270	270	270	
	施策指標③ (成果指標)								
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		135,254	161,372	154,614	164,920			
	歳入 (b)	受益者負担額	2,761	715	726	710			
		国や県からの補助金その他	1,694	2,127	1,574	1,712			
	(a) - (b) = 一般財源		130,799	158,530	152,314	162,498			
	正職員	従事者数 (単位:人)	11.85	7.35	6.90	6.90			
		人件費(c)	73,506	45,364	42,587	42,587			
トータルコスト (a) + (c)		208,760	206,736	197,201	207,507				

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	高齢者の生きがい対策として、生きがいづくりや文化活動の場の提供に関しては、利用者も増加しており、効果を上げている。老人クラブ活動の支援に関しては、高齢者が増加しているにもかかわらず、加入者が増えない状況にあり、活性化を講じなければならない。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者が生きがいをもって生活することは、心身の健康を保持するためにも重要なことであり、その意味で高齢者福祉の増進のため大きな貢献をしている。				

6. 施策の課題

この施策の課題	高齢者の生きがい対策事業のうち、高齢者生きがい事業は、老人クラブの加入者が対象者の増加にもかかわらず、減少しており、活性化を講じることが課題となっている。また、敬老事業は年々対象者が増加し、現在の方法では将来的に実施が困難になることが予想されるため、根本的に実施方法を見直すことが課題となっている。福祉センター及び老人福祉センターの管理運営事業については、施設の老朽化に対して、計画的に改修等を実施することが課題となっている。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	老人福祉センターについては平成27年度末で閉館予定であるが、高齢社会の進展に伴い、本施策の重要性は益々増大する。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	老人福祉センター管理運営事業については、平成27年度末で閉館予定である為、現状のままで継続する。福祉センター管理運営事業については、平成25年4月1日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行っており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待される。教養講座事業及び生きがい対策事業については、今後益々増大する高齢者の生きがいづくりの一助となるよう、利用者のニーズを勘案した見直しを図りながら継続する。また、高齢者生きがい対策事業については、老人クラブの活性化を検討しながら継続する。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	福祉総務課	①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会開催。 また、10月下旬結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催。 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	A
	敬老事業 (ソフト(任意))		11,749 (千円)			
2	福祉総務課	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	B
	高齢者生きがい事業 (ソフト(任意))		7,976 (千円)			
3	健康増進課	ジェットバス・露天風呂・ジャグジー・ミストサウナ等を備えた温浴施設やカラオケのできる舞台を備えた大広間、食堂サロン、茶室を備えた和室、更に卓球・ビリヤードのできる多目的室、囲碁・将棋等を楽しめる娯楽室等を設置し、市民に福祉及び健康増進の場を提供している。(また、平成25年4月1日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行っており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待される。)	2 現状のまま継続	c	見直しながらかつ続ける	
	福祉センター管理運営事業 (内部管理・維持管理)		92,498 (千円)			
4	老人福祉センター	市内に居住する60歳以上を対象に書道・陶芸・手芸・花卉園芸・盆栽・川柳・俳句・日本画など8教室による教養講座の開催とその成果発表を兼ねた作品展の開催により充実を図る。	2 現状のまま継続	c	見直しながらかつ続ける	D
	老人生きがい対策事業 (ソフト(任意))		2,929 (千円)			
5	老人福祉センター	後退機能の回復を高める為の温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置。又、二階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃える事によりレクリエーションの充実を図っている。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	老人福祉センター管理運営事業 (ソフト(任意))		39,462 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	敬老事業								
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	豊島和代				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費								
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
対象	市内75歳以上高齢者・結婚50周年夫婦			事業の 内容説明	①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会開催。 また、10月下旬結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催。 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る。					
事業の 目的	高齢者が地域社会の中で生きがいを持って生活することができるよう、高齢者の長寿を祝う行事や金婚式等を実施。									
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
	説明	市制発足当時から敬老を祝う行事であることから公共性は高いが、高齢者が増加する一方であるため、開催のあり方について、検討中。								
やめた 場合の 影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明 やめた当初は反響があると思われる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	敬老会参加者率		20.4	21	19	21	22	23	
	活動指標 ①	敬老会参加者		2,644	2,869	2,477	2,995	3,230	3,703	
	活動指標 ②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			12,555	13,529	11,749	14,342		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			国県補助金等その他							
		(a) - (b) = 一般財源			12,555	13,529	11,749	14,342		
正職員		従事者数(単位:人)		1.25	1.25	1.00	1.00			
		人件費(c)		7,754	7,715	6,172	6,172			
トータルコスト(a)+(c)			20,309	21,244	17,921	20,514				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	市の行事としての認知度は高い。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	敬老会は毎年9月の行事として高齢者には認知されている。また、金婚式については毎年多数の問い合わせがある。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	敬老会の開催内容、記念品送付年齢や品物選定等を再考することにより、コスト削減は可能。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		高齢者が増加しており、予算は拡大の一方である。敬老会を続行するなら、開催時間等変更による半日開催や送迎等あり方についての検討を行っていく必要がある。また、75歳以上の方の無作為抽出によるアンケートの実施により、敬老会や記念品のあり方の意見を聞く。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
説明		敬老関連事業について、事業内容の改善は可能である。								

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	高齢者生きがい事業							
	担当部名	福祉部	担当課名	福祉総務課	課長名	豊島和代			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進					
	予算事業名	03 01 04 民生費 社会福祉費 老人福祉費 老人生きがい対策事業費・高齢福祉事業費							
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度		
対象	市老人クラブ連合会・生きがい活動団体等		事業の内容説明	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。					
事業の目的	地域で暮らす高齢者が生きがいをもって暮らせ、明るく活気に満ちた地域社会の実現のため、各高齢者活動団体等へ向けて助成を実施。								
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業						
		説明	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	高齢者の生きがい活動の充実や地域高齢者の活動助成のため。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	市老人クラブ加盟団体数	71	75	65	75	70	70	
	活動指標①	老人クラブ加入者数	4,164	4,500	3,883	4,000	4,000	4,000	
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		8,220	8,848	7,976	8,452		
		歳入(b)	受益者負担額						
			国県補助金等その他	1,476	1,907	1,397	1,530		
		(a) - (b) = 一般財源		6,744	6,941	6,579	6,922		
正職員		従事者数(単位:人)	0.50	0.50	0.30	0.30			
		人件費(c)	3,102	3,086	1,852	1,852			
トータルコスト(a)+(c)		11,322	11,934	9,828	10,304				
単位当たりコスト	計算式等 ()/()								
備考(これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	老人クラブ加盟数及び加入者数ともに減少傾向にあるが、高齢者の老人クラブ加入は、高齢者自身が生きがいを見つける助けとなり、地域社会への活力となっている。音楽療法等の活動は介護予防としての効果を発揮している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	活動をしている団体は地域に根ざしているところが多く、地域と行政のパイプ役として機能している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながるため難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		補助金額の見直しによる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 補助対象が減少すれば、事務事業も減少。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 5月 28日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	福祉センター管理運営事業								
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	酒井 常也				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
	予算事業名	福祉センター管理運営事業								
	事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度		
	対象	来館者		事業の 内容説明	ジェットバス・露天風呂・ジャグジー・ミストサウナ等を備えた 温浴施設やカラオケのできる舞台を備えた大広間、食堂サ ロン、茶室を備えた和室、更に卓球・ビリヤードのできる多目 的室、囲碁・将棋等を楽しめる娛樂室等を設置し、市民に福 祉及び健康増進の場を提供している。(また、平成25年4月1 日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行なっており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待され る。)					
	事業の 目的	市民にレクリエーションと多世代間のふれあいの場を提供し、健康と生きがいづくりに取り組んでもらう福祉施設としての管理運営を目的とする。								
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	説明								
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数(人)		132,688	134,014	128,555				
	活動指標 ①	浴場利用者数(人)		126,649	127,915	126,402				
	活動指標 ②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)		77,317	98,900	92,498	100,250			
		歳入 (b)	受益者負担額	2,761	715	726	710			
			国県補助金等その他							
		(a) - (b) = 一般財源		74,556	98,185	91,772	99,540			
正職員		従事者数(単位:人)	4.30	0.40	0.40	0.40				
		人件費(c)	26,673	2,469	2,469	2,469				
トータルコスト(a)+(c)		103,990	101,369	94,967	102,719					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)	平成25年度から、指定管理者制度の導入に伴い、70歳以上の方からも入場料(100円)を徴収したため、前年度に比べて利用者数が減少した。									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	指定管理者に委託したことにより、コストの低減が図れた。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	「福祉と健康づくり」につながり、市民の「レクリエーション・多世代間のふれあいの場」となっている。						
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
			説明	平成25年度から指定管理者制度を導入したばかりであり、効率性は非常に高いと考える。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		施設の管理等については、設備の老朽化が進んでおり指定管理者と連絡を取り合いながら、修繕を進めていく。また、指定管理者制度の導入により民間の手法を取り入れて、来館者のニーズをより的確に察知して施設の充実を図り、来館者の関心を高めることにより、更なる「生きがいづくり・福祉」の推進が図っている。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	施設の老朽化が進んでおり、修繕等の状況によっては事業費が増大する可能性がある。				

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	老人生きがい対策事業									
	担当部名	健康部	担当課名	老人福祉センター	課長名	森本 良弘					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進							
	予算事業名	老人生きがい対策事業									
	事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度			
	対象	市内に居住する60歳以上の人			事業の 内容説明	市内に居住する60歳以上を対象に書道・陶芸・手芸・花卉園芸・盆栽・川柳・俳句・日本画など8教室による教養講座の開催とその成果発表を兼ねた作品展の開催により充実を図る。					
	事業の 目的	市内に居住する老人の趣味等文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民との交流促進を図り、老人の潤いのある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図る。									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	市内に在住する老人の趣味等文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民との交流促進を図り、老人の潤いある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図っている。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	市内公共施設において無料で利用できる高齢者のレクリエーション施設が無くなる為、老人が健康で明るい生活を営む場や生きがいを持ち教養を高める機会が減少する。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	教室受講者数			344	350	349	350	350		
	活動指標 ①	新規教室募集者数			52	60	56	60	60		
	活動指標 ②	教室展示会出品者数			320	350	330	350	350		
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			2,939	3,216	2,929	3,225			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			2,939	3,216	2,929	3,225			
正職員		従事者数(単位:人)			1.80	1.60	1.60	1.60			
		人件費(c)			11,165	9,875	9,875	9,875			
トータルコスト(a)+(c)			14,104	13,091	12,804	13,100					
単位当 たり コスト	計算式等 (トータルコスト) / (受講者数)			41	37	37	37				
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	教養の向上や受講生同士の交流を生きがいとする老人も多いが、受講者数は横ばいである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	交流を楽しみ、教養の向上を目的とした老人が参加している。意欲的に受講しているが継続受講する参加者が多い。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	以前から経費削減している為、これ以上の経費削減は見込めない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		当施設は平成27年度末で閉館予定である為、現状のままで継続する。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			当施設は平成27年度末で閉館予定である為、現状のままで継続する。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	老人福祉センター管理運営事業									
	担当部名	健康部	担当課名	老人福祉センター	課長名	森本 良弘					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進							
	予算事業名	老人福祉センター管理運営事業費									
	事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度			
	対象	市内に居住する60歳以上の人									
	事業の 目的	60歳以上の老人に対する健康の増進、教養の向上、後退機能の回復訓練等により老人が健康で明るい生活を営めるようにする福祉増進を目的とする。			事業の 内容説明	後退機能の回復を高める為の温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置。又、二階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃える事によりレクリエーションの充実を図っている。					
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	老人福祉法第15条第5項の規定に基づき、市内老人に対し健康の増進、教養の向上の為の便宜を総合的に供与している。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	市内公共施設において無料の高齢者のレクリエーション施設が無くなり、健康で明るい生活を営む場を得ていただく機会が減少する。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数			96,119	100,000	97,224	100,000	100,000		
	活動指標 ①	団体利用者数			3,827	3,600	2,586	3,600	3,600		
	活動指標 ②	浴場入浴者数			92,292	96,400	94,638	96,400	96,400		
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			34,223	36,879	39,462	38,651			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他			218	220	177	182		
		(a) - (b) = 一般財源			34,005	36,659	39,285	38,469			
正職員		従事者数(単位:人)			4.00	3.60	3.60	3.60			
		人件費(c)			24,812	22,219	22,219	22,219			
トータルコスト(a)+(c)			59,035	59,098	61,681	60,870					
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト) / (利用者数)			0.61	0.59	0.63	0.61				
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	1日に約300名の利用があり、温浴施設や館内でのカラオケ等のレクリエーション、囲碁、将棋等の娯楽を通じて、利用者が楽しく充実した生活を過ごせる場になっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	利用者同士の交流で楽しく充実した生活を過ごせる場を提供し、温浴施設や磁気機器の使用で後退機能の回復を図る等、健康増進に貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	以前から経費削減している為、これ以上の経費削減は見込めない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		当施設は平成27年度末で閉館予定である為、最低限の修繕にとどめる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			当施設は平成27年度末で閉館予定である為、最低限の修繕にとどめる。							